

科目名 Course Name	栄養指導論 Nutrition Education			ナンバリング No.	L1-013		
年次	1年	期別	通年	単位数	4	授業形態	講義
担当者氏名	駒場啓子						
連絡先(質問等)	社会福祉棟2階研究室か、メールで対応。オフィスアワーは授業担当時間以外。						
必修/選択	選択 (栄養士資格必修)						
関連 DP	DP2 DP3 DP5						
授業の概要と到達目標	<p>栄養指導を行うために必要な栄養教育・栄養指導の概念および栄養教育の方法論として行動科学について理解し、栄養教育・栄養指導の基礎知識を習得する。さらに、栄養教育・栄養指導を行うために必要な情報収集と情報処理について理解する。また、ライフステージ・ライフスタイル別に栄養教育・栄養指導の特性および留意事項を学習し、個々の対象者に応じた栄養教育・栄養指導の知識・技術や手法について習得する。</p> <p>①栄養教育・栄養指導の概念について説明できるようにする。 ②行動科学理論およびカウンセリングの基礎と栄養教育・栄養指導への応用に関する知識を身に付けられるようにする。 ③栄養教育・栄養指導に必要な情報収集と情報処理について理解し、活用できるようにする。 ④栄養教育マネジメントの目的・意義および一連の過程について (PDCA サイクルを含む) 修得できるようにする。 ⑤ライフステージ・ライフサイクル別栄養教育・栄養指導の特性、実態および問題点を把握し、科学的根拠に基づいた栄養教育ができるようにする。</p>						
授業の方法	テキストを中心とした講義形式で授業を進める。当日レポートを実施し、授業の振り返りを行う。ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育・栄養指導では、グループで話し合いながら、パワーポイントを使ったプレゼンテーションによる模擬栄養指導を行う。						
学習成果	L01						
	L02	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教育の意義と特性および現在必要とされている栄養教育の課題について説明することができる。 ・食行動変容のための行動科学の理論モデルを理解し、応用することができる。 ・食に関するエビデンスのある情報を収集し、活用することができる。 					
	L03	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりのための自己管理能力形成の支援方法を習得することができる。 ・ライフステージ・ライフスタイル別に、個々の対象者におうじた栄養教育・栄養指導の知識・技術や手法について習得することができる。 					
	L04						
課題に対するフィードバック	小テストは試験後に模範解答を示し、授業時間内にフィードバックする。定期試験は試験後に模範解答を示し、2年次「栄養指導実習Ⅱ」の授業時にフィードバックする。						
教科書/参考図書	「改訂 栄養指導論」(相川りゑ子編著・建帛社)						
履修上の留意点やルール等	●遅刻厳禁 ●授業中の飲食は禁止●携帯電話の使用は禁止 ●事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。						
担当教員の実務経験	実務経験 駒場 (職種: 栄養教諭 職歴: 6年) ライフステージ別学童・思春期生徒への栄養指導では、経験を生かして教えることができる。						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	事前・事後学習をしっかりと行っていること。不明なことは積極的に質問すること。		10		
レポート/作品	第10回目にレポートを課す。評価規準Sは、食料自給率と食品ロスとの関係を重要な日本の食料問題と捉え、課題の改善に対して自分の考えをきちんと述べられていること。誤字脱字がないこと。		20		
発表	プレゼンテーションによる栄養指導のSの評価は、「対象者に分かりやすい内容であること、よりよい発表になる様グループ内のコミュニケーションを積極的に図っている。」である。			10	
小テスト	第15回目に小テストを行う。評価は、「栄養指導の歴史、栄養指導に必要な基礎事項、栄養教育プログラムについての理解度」である。		20		
試験	第31回目に定期試験を行う。評価は「栄養教育計画、行動科学理論を応用した栄養指導、ライフステージ・ライフサイクル別栄養指導、健康障害と栄養指導についての理解度」である。			40	
その他					
合計			50	50	

回数	授業計画	
1	授業内容	学習の成果、学習方法、成績評価、授業の諸注意について
	事前・事後学習	栄養指導・栄養教育の目的について考える。
2	授業内容	栄養指導・栄養教育の目的・栄養指導の必要性・栄養指導の場
	事前・事後学習	自分が目指す栄養指導の場について調べる。
3	授業内容	社会の変化と栄養指導の変遷①栄養指導の始まりから戦後復興まで
	事前・事後学習	社会の変化①と栄養指導の変遷について調べる。
4	授業内容	社会の変化と栄養指導の変遷②経済成長期から国民健康づくり対策まで
	事前・事後学習	社会の変化②と栄養指導の変遷について調べる。
5	授業内容	社会の変化と栄養指導の変遷③現在の栄養指導
	事前・事後学習	国民健康・栄養調査の結果から課題を調べる。
6	授業内容	栄養指導に必要な基礎事項①食品標準成分表の活用
	事前・事後学習	食品標準成分表を使い栄養価計算をする。
7	授業内容	栄養指導に必要な基礎事項②日本人の食事摂取基準の考え方
	事前・事後学習	自分の推定エネルギー必要量を計算する。
8	授業内容	栄養指導に必要な基礎事項③日本人の食事摂取基準の活用方法
	事前・事後学習	個人に対する活用と集団に対する活用について調べる。
9	授業内容	栄養指導に必要な基礎事項④食生活指針と食事バランスガイドの活用
	事前・事後学習	食事バランスガイドを使い、食事内容を分析する。
10	授業内容	栄養指導に必要な基礎事項⑤食育、食料需給、健康日本21 *レポート：「日本の食料自給率と食品ロスを考える。」 提出は13回目の授業日
	事前・事後学習	食品ロスについての情報を収集する。
11	授業内容	食生活・栄養に関する諸調査
	事前・事後学習	様々な食事調査の特徴と活用について調べる。
12	授業内容	栄養教育プログラム①マネジメントサイクル (PDCA)
	事前・事後学習	栄養教育のPDCAについて考える。
13	授業内容	栄養教育プログラム②栄養アセスメントの目的、身体的状況の指標
	事前・事後学習	アセスメントの方法と活用について考える。
14	授業内容	栄養教育プログラム③栄養指導計画の立案
	事前・事後学習	栄養指導計画を立案する。

15	授業内容	栄養指導の評価 *小テスト
	事前・事後学習	栄養指導計画を立案する。
16	授業内容	行動科学理論と栄養教育・栄養指導への応用
	事前・事後学習	行動科学理論を応用した栄養教育・栄養指導による食行動変容について調べる。
17	授業内容	カウンセリングの基本と応用
	事前・事後学習	カウンセラーが留意すべきことについて調べる。
18	授業内容	栄養指導の方法（個別指導と集団指導、指導形態、教材・媒体）
	事前・事後学習	様々な指導形態について調べる。
19	授業内容	ライフステージ・ライフスタイル別栄養指導（妊娠期・授乳期）
	事前・事後学習	班活動：担当ステージの栄養指導用プレゼンテーション資料作成
20	授業内容	ライフステージ・ライフスタイル別栄養指導（乳児期・幼児期）
	事前・事後学習	班活動：担当ステージの栄養指導用プレゼンテーション資料作成
21	授業内容	ライフステージ・ライフスタイル別栄養指導（学童期・思春期）
	事前・事後学習	班活動：担当ステージの栄養指導用プレゼンテーション資料作成
22	授業内容	ライフステージ・ライフスタイル別栄養指導（成人期）
	事前・事後学習	班活動：担当ステージの栄養指導用プレゼンテーション資料作成
23	授業内容	ライフステージ・ライフスタイル別栄養指導（高齢期）
	事前・事後学習	班活動：担当ステージの栄養指導用プレゼンテーション資料作成
24	授業内容	ライフステージ・ライフスタイル別栄養指導（単身生活者）
	事前・事後学習	班活動：担当ステージの栄養指導用プレゼンテーション資料作成
25	授業内容	ライフステージ・ライフスタイル別栄養指導（スポーツをする人） 模擬栄養指導：妊娠期・授乳期、乳児期
	事前・事後学習	班活動：担当ステージの栄養指導用プレゼンテーション資料作成
26	授業内容	健康障害と栄養指導 模擬栄養指導：幼児期、学童期、思春期
	事前・事後学習	糖尿病のための食品交換表の使い方を調べる。
27	授業内容	給食における栄養指導①（病院給食、学校給食） 模擬栄養指導：成人期、高齢期
	事前・事後学習	入院患者への栄養指導のポイントを調べる。
28	授業内容	給食における栄養指導②（児童福祉施設給食、社会福祉施設給食、事業所給食） 模擬栄養指導：単身生活者、スポーツをする人
	事前・事後学習	保育所の食物アレルギー対応について調べる。
29	授業内容	栄養教育の国際的動向（先進国・開発途上国における栄養教育）
	事前・事後学習	開発途上国における栄養問題を調べる。
30	授業内容	栄養指導と情報の収集・処理
	事前・事後学習	マスメディア情報活用の注意点について調べる。